慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	荘内藩致道館旧蔵漢籍について
Sub Title	A catalog of Chinese classics collected by the school of the Shonai clan "Chidokan 致道館" in the Edo period
Author	高橋, 智(Takahashi, Satoshi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2014
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.49 (2014.) ,p.49- 95
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20140000-0049

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

荘内藩致道館旧蔵漢籍について

髙橋　智

江戸時代から明治時代にかけて、学問教育の中心であった各藩の藩校の活動は、中世の、博士家を中心とした漢・唐の訓詁学を重んじた公家や寺院に於ける宋・元版の講読を重んじる禅僧の学問とは大きく様相を異にしたが、その要因の一つには、中国から渡来する学問やそれを裏付ける典籍（漢籍）の変化が考えられるであろう。江戸時代は、明時代の文集や注釈編纂物が大量に上陸し、日本国内の儒者を刺激したが、それは古典籍を自由に選び解釈していく幅広い明の学風に同調したと言えるのではなかろうか。そして江戸時代もようやく爛熟期を終え晩期を迎えるころには、こんどは、緻密な考証を基とする清朝の考証学（皇清経解など）が輸入され、再び儒者に刺激を与えてゆく。こうした風潮は、藩校の実際の教育にどのような影響を及ぼしたのかは定かではないが、藩校では儒者を迎え、蔵書を整えて、藩校教授によるテキストの作製や校勘作業、出版事業など、藩校主導による蔵書文化活動が盛んに行われており、そこには明らかにこの風潮が強い影響を与えている。とはいえ、夥しい数にのぼった藩校も、廃校になってからは、その旧蔵書は殆どが廃棄散逸している。明治二十二年に刊行された文部省による「日本教育史資料」には、藩

校のかつての書物文化の姿を想像できる資料が並べられている。かつて藩校研究に従事された笠井助治氏は「近世藩校に於ける出版書の研究」を著し、所謂藩版の網羅的研究をされ、藩校の出版文化が明らかとなった。しかし、一方で、廃校後、書庫の蔵書を量り売りした旧藩は少なくなく、出版物として流布する書物とは違って、一箇所に集まった蔵書はと言えば、散逸の後にはもはや海に拡散する塩分と同様になってしまった。その収集された蔵書を見ることによって、藩校がめざす方向性の概ねを探ることができるのであってみれば、今に伝える旧藩校の蔵書は、その時代に生きた人が最早存在しない後世にとって、何ものにも代えがたい宝であると言えるのではなかろうか。ここに紹介する山形県鶴岡市立図書館（郷土資料館）に所蔵される藩校致道館の蔵書は、漢学を中心とした江戸時代の学問府の内実を遺憾なく表している、稀有な価値を有するものである。ここに、現在進行している旧藩校蔵書研究の一環として、その書誌調査を目録化した。致道館文庫の保存公開に鋭意努められる同館の大志の一助となればと願う次第である。また、調査については、秋保良氏、今野章氏による多大なご援助を賜ったことを特にここに記しておく。

解題

荘内藩第九代藩主、酒井忠徳（一七五五～一八一二）は藩政改革による財政再建を行い、その成功をうけて、文化二年（一八〇五）、藩の学校である致道館を設立した。ここにいたる経緯などは、「史跡庄内藩校　致道館」（昭和四十六年　社団法人荘内文化財保存会）に詳しく記されている。最近のものでは、「図説鶴岡のあゆみ」（二〇一一年　鶴岡市史編纂会）に記される。荘内藩の学問はと言えば、忠徳以前に、水野元朗（一六九二～一七四八）・疋田進修（一

七〇〇～一七三八）らが荻生徂徠（一六六六～一七二八）に学び、その学徳を藩内に広めていたが、白井矢太夫（一七五三～一八一二）があらわれて忠徳の信任を得、致道館の設立と藩学における徂徠学の導入に至ったのであった。矢太夫は若くして江戸に出て徂徠の門人に笈を負い、帰藩して藩政に功あり、致道館の初代祭酒となった。藩校での教育は「四書」「五経」を中心としたものであったが、藩校の学生が読むべきものとして、或いは師範が教えるべきものとして、購入し揃えられた書物は、漢籍が中心であった。その構成は、徂徠の学問を象徴するように、明時代の人が著した文集や編纂したテキストが主なものとなっている。更に、儒学・歴史・思想・文学などの基本図書をよく選択して加え、藩校の印記に相応しい「致道館蔵書印」の大印を各冊に捺して、大切に保管したのであった。何時の頃に作られたかは定かではないが、現在に伝える、これらの古典籍収納専用の桐箱は一百四十七函（うち、国書二十七函）にのぼる。蔵書蒐集完了後は、この木箱に収められて厳重に管理されたものと思われる。木箱の前扉には、達筆にて収納する書物の書名が墨書される。これらの箱書きの一部は、書家・黒崎研堂（一八五二～一九二八）のものであろうと、郷土資料館の秋保良氏は言う。

蔵書の特色の一つに、中国刊本（唐本）が多いことが挙げられるが、「皇清経解」「通志堂経解」の初刻本をはじめ、明時代の汲古閣本「十七史」や国子監刊「二十一史」などはとりわけ得がたいテキストである。貴重本の紹介は、早く昭和二十八年十月十五日・二十四日の山形新聞に、当時山形大学の星斌夫氏が「よみがえる中国史文献」「中国史料の宝庫」と題して記されている他、弘前大学の細谷良夫氏が、一九八三年一月に雑誌「東方」（東方書店）誌上に「庄内藩藩校致道館とその所蔵漢籍」としてご発表された（いずれも秋保氏のご教示による）。

現在伝わっているものと本来所蔵されたものとの源流照合などなお幾つかの不明な点や今後の研究に期する問題点

は存するものの、少ない例ながら、同様に保存されて現在に遺る他藩の蔵書との比較研究など、本目録によって知られる蔵書内容は、日本文化史研究にとって大きな意味を持つことは疑いがない。

分類目録

凡例

一、本目録は、山形県鶴岡市・鶴岡市立郷土資料館が所蔵する、旧庄内藩藩校・致道館の旧蔵書（漢籍部分）の分類目録である。

一、漢籍は伝統的な分類に従って、経部（儒学関係書）・史部（歴史）・子部（諸子百家）・集部（詩文集）の四部に分け、それに準じる日本人の漢文著作を「日本漢文」として分類した。

一、分類内の配列は、原則として成立順、著者の没年順に拠る。

一、目録部分の記載は、書名・巻数・不全本の場合、存在する巻数は、存巻幾、欠けている巻数は、欠巻幾・著者（言い伝えの場合は、旧題、著者不明の場合は、闕名撰または不著撰人）・校訂者・出版（鈔写）年（括弧内に出版地・出版者、中国刊本の場合は括弧なしの場合もある）・叢書の一部分の場合は叢書名・冊数・収蔵函番号の順で記す。以下、年号は括弧内に西暦を記した。

一、各書の目録部分の後に、○として書誌事項の参考とするべきものを注記した。

一、○以下の書誌事項について、致道館文庫の漢籍は、中国で出版・印刷された中国刊本（唐本）、日本の江戸時代

に出版・印刷された日本刊本（和刻本）に大きく分かれるので、凡そ次のような原則で書誌事項を記した。専門に書誌学の研究に資する際には、必要な項目であり、これによって、書名が同じものでも異種のテキストであることが判明することが多い。

唐本の場合は、

甲、本文を囲む枠が一本である場合（単辺）と二本である場合（双辺）とを区別し、その枠内の縦横の寸法（内匡）を記した。

乙、半頁に何行本文があるか、各行に何字記されているか、を記した。

丙、柱に当たる各頁の折れ目を版心と呼び、そこに何も記していないものを、白口、黒くなっているものを黒口と呼び、黒色の大きさによって粗黒口とか大黒口などと記す。版心には丁数や版木に字を彫刻した彫り師（刻工）の名前などを記すが、上部と下部を区切る魚の尾に似た記号を加えることがあり、魚尾という。一つであれば単魚尾、二つであれば双魚尾などと記す。また、版心の下部には、出版元の名前を記すこともある。版心の真ん中を中縫と呼び、叢書名や書名を略記したりする。

丁、表紙の見返し、封面に出版者などの名前や刊年がある場合に、それを記した。

戊、本文の編纂や出版に関わる序文や跋文がある場合には、それを記した。

己、刊記（四角で囲む場合には木記と呼ぶ）がある場合には、それを記した。刊語はやや長文の刊記をいう。

庚、蔵書印がある場合、注記した。「外舎」印などとあるのは、致道館の学制を示す印である。

辛、中国刊本に限らず、出版から時間を経て原板が痛んだ際、部分的に修訂を加えることがあり、それを「修」「後

修」「補刻」などと注記することがある。「後印」とは発刊時からかなり時を経て再印されたものであることを示す。「遞修」は補刻を何度も繰り返すこと。

壬、刊本で、部分的に欠けている部分を書写して補った箇所は「補鈔」「補写」などと記した。

癸、所持者の書き入れがある場合と、句点や圏点（〇の記号で注意を喚起する）を印刷して組み込んでいる場合とがあるので、注記した。

和刻本の場合は、

子、表紙に貼られた題名「外題」に「改正」などの角書（つのがき）がある場合に、それを注記した。

丑、中国刊本のような、行字数などの版式は原則として記さず、中国本の覆刻のようなもので、底本を探すのに参考になると思われるような場合に、それを記した。

寅、表紙の見返し、封面に識語や刊年、書肆名がある場合、それを略記した。

卯、版心に出版者名などがある場合にはそれを記した。

辰、底本とした中国刊本の序文、日本の漢学者が記した序文・跋文などは極力記した。

巳、刊記は、本文に連続する頁に年紀などが記されているものであるが、目録の刊年に反映されている場合は特に記さないが、その刊記が、後に入木（彫り直している）したものや、後印の際に加えたものである場合には、その旨を記した。

午、奥付は、本文と別丁になっている年紀を記したものであるが、特に、刊年と関係が深い場合に、その書肆名なども記し、関係がない場合は省略した。

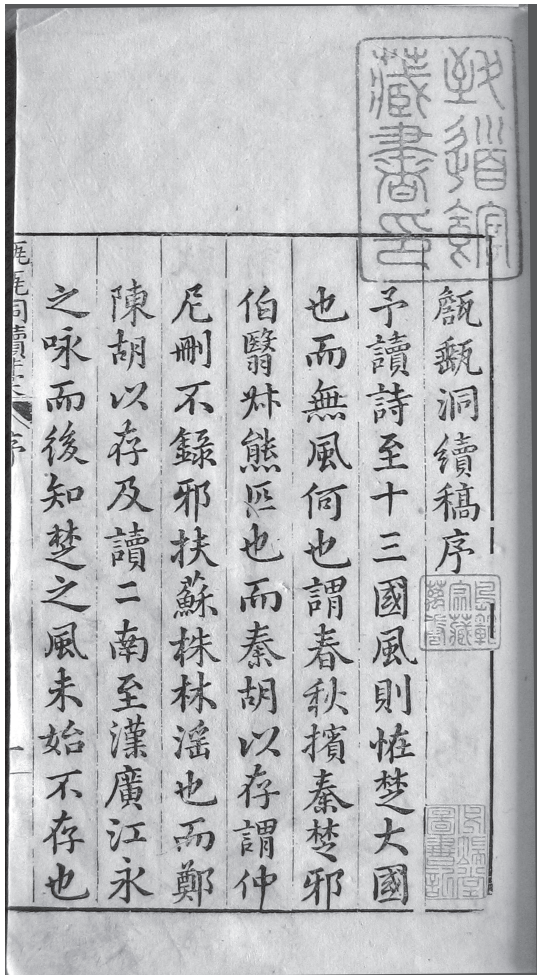
未、後印の際に書肆が販売目録を附録としてつける場合があるが、ある場合にはそれを記した。

申、蔵書印は、著名なものだけを記した。

酉、初印本と記すのは、印面が清朗であることを示す。

戌、和刻本に限らず、唐本に於いても、同版・修本・異版の識別は複雑なものが多い。同版・修本の場合、記載事項が同じであれば「又」と表記する。同版異版は、できうる限り比較したが、完全ではないので、大方のご教示をお願いしたい。

亥、幾部か写本を存するが、写本の場合、一手によるものか、幾人かで書写した寄り合いか、を記した。

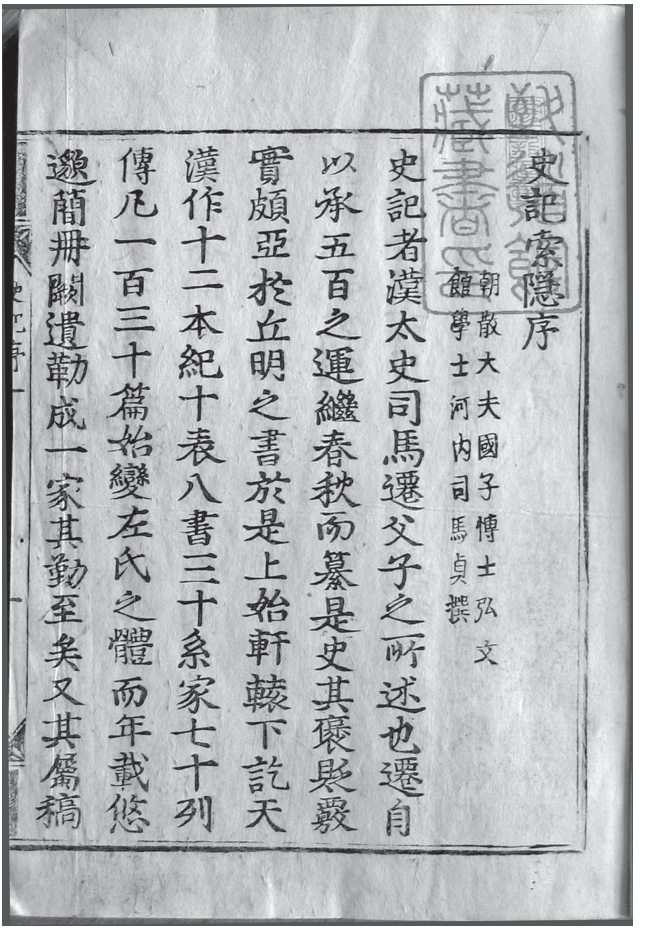


甑甄洞續稿序

予讀詩至十三國風則惟楚大國也而無風何也謂春秋擯秦楚邪伯翳炓熊匹也而秦胡以存謂仲尼刪不錄邪扶蘇株林滛也而鄭陳胡以存及讀二南至漢廣江永之咏而後知楚之風未始不存也

甑甄洞續稿　序　一

図版１（集部別集類所載）甑甄洞続藁　明呉国倫撰　馮夢禎校
明万暦31年（1603）馬攀龍刊　特大20冊（集十函）の第1丁



史記索隱序

朝散大夫國子博士弘文館學士河内司馬貞撰

史記者漢太史司馬遷父子之所述也遷自以承五百之運繼春秋而纂是史其褒貶覈實頗亞於丘明之書於是上始軒轅下訖天漢作十二本紀十表八書三十系家七十列傳凡一百三十篇始變左氏之體而年載悠邈簡冊闕遺勒成一家其勤至矣又其屬稿

図版２（史部正史類所載）史記130巻　漢司馬遷撰　慶長年間刊
古活字版　50冊（函番ナシ）の序第1丁

経部

【易類】

京氏易伝三巻　漢京房撰　呉陸績注　明程栄校　明万暦年間刊　漢魏叢書之一　一冊（経一函）

○左右双辺（内匡縦19.8×横13.3糎）、九行二十字、白口、単魚尾、版心下部ニ刻工名アリ

首書易経集注（外題）二十四巻　欠首　宋程頤撰　朱熹本義　松永昌易点　寛文四年（一六六四）刊（京、野田庄右衛門）　十二冊（経十函）

○末ニ松永昌易ノ跋、寛文四年ノ刊記アリ、「嶽月」印アリ

石鏡山房増訂周易説統二十五巻　明張振淵撰　張懋忠増補　明天啓六年（一六二六）銭泓刊　十六冊（経一函）

○四周単辺（内匡縦20.5×横11.8糎）、九行二十二字、白口、無魚尾、版心下部ニ「石鏡山房」トアリ、句点・圏点・傍点刻ス、明万暦四十三年（一六一五）天啓六年（一六二六）ノ序アリ、末ニ「天啓六年銭泓録刊」トアリ

易経発蒙（封面題周易会通）六巻　清王朝珊撰　清乾隆五十六年（一七九一）刊（繹思堂）　十冊（経一函）

○左右双辺（内匡縦20.1×横12.8糎）、十二行二十六字、白口、単魚尾、版心下部ニ「培桂斎」トアリ、清康熙五十三年（一七一四）培桂斎王朝珊ノ序、雍正三年（一七二五）周大璋ノ序アリ

御纂周易述義十巻　清呉鼎等奉勅撰　清乾隆二十年（一七五五）序刊　八冊（経一函）

○四周双辺（内匡縦20.6×横14.9糎）、八行二十字、白口、単魚尾、乾隆二十年汪由敦ノ序アリ

【書類】

尚書十三巻　存巻九・十　旧題漢孔安国伝　清原宣條校　江戸後期刊　一冊（雑一函）

○版心下部ニ「正本」トアリ、「嶽月」印アリ

首書書経集注（外題）六巻　宋蔡沈集伝　松永昌易点　寛文四年（一六六四）刊　享保九年（一七二四）印（京、今村八兵衛）　六冊（経十函）

○末ニ松永昌易ノ跋、寛文ノ刊記ヲ享保九年今村八兵衛ニ改刻ス

新鍨書経講義会編十二巻　明申時行撰　安井真祐点　延宝二年（一六七四）刊（京、吉野屋権兵衛）　覆刻明万暦二十六年（一五九八）徐銓校刊本　十五冊（経十函）

○首ニ明万暦二十六年申時行ノ序アリ、甥李鴻編・子用懋用嘉訂・徐詮校刊ト、末ニ安井真祐ノ延宝二年ノ刊語、吉野屋権兵衛刊行トアリ

尚書後案三十巻　清王鳴盛撰　清乾隆四十五年（一七八〇）王氏礼堂刊　八冊（経一函）

○四周単辺（内匡縦22.5×横15.7糎）、十四行三十字、白口、単魚尾、封面ニ「礼堂蔵版」トアリ

【詩類】

呂氏家塾読詩記三十二巻　宋呂祖謙撰　明史樹徳等校　宝永一年（一七〇四）刊　覆刻明万暦四十一年（一六一三）刊本　十冊（経四函）

○宋淳熙九年（一一八二）朱熹序、明嘉靖十年（一五三一）陸釴、万暦四十一年（一六一三）顧起元ノ序アリ、刊記ハ埋木（うめき）

新刻頭書詩経集注八巻　宋朱熹集伝　松永昌易点　鈴木温校　寛政三年（一七九一）刊（京、今村八兵衛）　覆刻寛文四年（一

六六四）刊本　八冊（経十函）

○末ニ松永昌易ノ跋アリ、刊記ニ「寛文四年・・／寛政三年・・再刻／今村八兵衛蔵版」トアリ、寛政三年鈴木尋思斎温ノ刊語アリ、「嶽月」印アリ

【礼類】

大戴礼記補注十三巻　清孔広森撰　清嘉慶五年（一八〇〇）刊　覃軒孔氏所著書十三～二十六　四冊（経四函）

○左右双辺（内匡縦17.9×横14.5糎）、十行二十字、版心上粗黒口、下白口、双魚尾、中縫ニ「覃軒孔氏所著書十三～二十六」ト刻ス、巻十三末ニ「乾隆甲寅（五十九）弟広廉校刊」トアリ、封面ニ「嘉慶五年校栞」トアリ

新定三礼図二十巻　宋攝崇義撰　清納蘭成徳校　菊池南陽校　宝暦十一年（一七六一）刊　寛政四（一七九二）年印（南紀、青霞堂帯屋伊兵衛）　覆刻清刊本　四冊（経四函）

○句点ヲ刻ス、宝暦十一年菊池南陽ノ跋アリ、封面ニ「寛政再刻青霞堂蔵」トアリ、奥付ニ「宝暦十一年原板　寛政四年青霞堂蔵　南紀帯屋伊兵衛蔵版」トアリ、宝暦ノ原板ト寛政ノ再刻ハ同版本

欽定三礼義疏　清允禄・弘瞻等奉勅撰　清乾隆年間刊　紫陽書院蔵版　一百六十冊（寄九～十一函）

欽定周官義疏四十八巻

欽定儀礼義疏四十八巻

欽定礼記義疏八十二巻

○四周双辺（内匡縦21.5×横15糎）、八行十八字、句点ヲ刻ス、清乾隆十三年（一七四八）御製三礼義疏序、乾隆十九年（一七五四）允禄・弘瞻ノ武英殿監造記アリ、封面ニ「紫陽書院蔵版」トアリ、「念終始／典于学」印アリ

儀礼経伝通解三十七巻続二十九巻　宋朱熹撰　（続）宋黄榦撰　清康熙年間刊　後印　三十三冊（経一函）

○左右双辺（内匡縦19.3×横14.1糎）、十二行二十五字、白口、単魚尾、宋嘉定十六（一二二三）ノ旧序アリ

五礼通考二百六十二巻首四巻目二巻附読礼通考一百二十巻　清秦蕙田撰　清方観承訂　（読）清徐乾学撰　清康熙年間味経窩刊　百六十冊（制五～七函）

○左右双辺（内匡縦18.4×横14糎）十三行二十一字、白口、単魚尾、版心二字数・刻工名アリ、封面ニ「味経窩蔵版」トアリ

又　百六十冊（寄十二函）

○「「念終始／典于学」印アリ」

司馬氏書儀十巻　宋司馬光撰　清汪郊校　天保弘化年間刊（芳春楼）覆刻清刊本　仿宋字　唐本仕立　四冊（子二函）

○清雍正一・二年（一七二三・二四）ノ汪亮采・汪郊・汪祁・汪郯ノ序跋アリ

【春秋類】

春秋釈例十五巻　晋杜預撰　清嘉慶五年（一八〇〇）掃葉山房刊　覆刻武英殿聚珍版　八冊（経四函）

○左右双辺（内匡縦19.8×横13糎）、十行二十字、白口、双魚尾、版心下部ニ「掃葉山房」トアリ、封面ニ「嘉慶庚申年鐫　掃葉山房」トアリ、巻頭ニ「武英殿原本」ト、清乾隆五十二年（一七八七）ノ校勘序アリ

春秋左伝集解三十巻　存巻十九・二十　晋杜預撰　那波魯堂点　江戸後期刊　一冊（雑一函）

○各巻首版心下ニ「那波師曽句読」トアリ、「風月」印リ

春秋（正文）（胡氏伝単経本）　江戸前期刊（松梅軒）　一冊（雑一函）

○版心下部ニ「松梅軒蔵」トアリ、五経ノ一、「句読所」印アリ

左繡三十巻　清馮李驊撰　清乾隆嘉慶年間書業堂刊　十六冊（史十二函）

○左右双辺（内匡縦14.3×横13.7糎）、八行二十字、白口単魚尾、句点、傍点、圏点ヲ刻ス、封面ニ「書業堂鐫蔵」トアリ、清康熙五十九年（一七二〇）朱軾、張徳純ノ序、陸浩ノ跋アリ

【群経総義類】

五経大全　欠詩経大全　明胡広等奉勅撰　林羅山点　承応二年（一六五三）梅天刊（京、吉文字屋庄右衛門）　二十六冊（経二函）

周会魁校正易経大全二十四巻首一巻図説一巻

○外題「官板易経大全」、林羅山ノ跋アリ、跋ノ裏ニ吉文字屋板行ノ刊記アリ

申学士校正官板書経大全十巻首一巻　覆刻明芝城余氏徳寿堂刊本　十一冊（経二函）

○林羅山ノ跋アリ、「承応二年梅天板行」ノ刊記アリ、ソノ裏丁ニ「吉文字屋板行」（易経大全ト同様）トアリ

礼記集説大全三十巻　三十冊（経二函）

○林羅山ノ跋アリ、吉文字屋ノ刊記モ同様

春秋集伝大全三十七巻首一巻　三十八冊（経三函）

○林羅山ノ跋アリ、吉文字屋ノ刊記モ同様

十三経注疏　存三百一十三巻　欠毛詩注疏　明毛晋校　明崇禎年間・常熟毛氏汲古閣刊　清乾隆年間修　百三十八冊（経七～九函）

○左右双辺（内匡縦17.7×横11.8糎）、九行二十一字、白口、無魚尾、版心下部ニ「汲古閣」トアリ、各書ニ刊記アリ

周易兼義九巻　魏王弼・晋韓康伯注　唐孔頴達正義　六冊

○序ニ補刻アリ、刊記ハ磨滅

尚書注疏二十巻　旧題漢孔安国伝　唐孔頴達疏　九冊

○巻末刊記葉ハ補刻（明崇禎五年＝一六三二）

周礼注疏四十二巻　漢鄭玄注　唐賈公彦疏　二十冊
○明崇禎一年（一六二八）ノ刊記アリ
儀礼注疏十七巻　漢鄭玄注　唐賈公彦疏　十三冊
○明崇禎九年（一六三六）ノ刊記アリ
礼記注疏六十三巻　漢鄭玄注　唐孔頴達疏　三十冊
○巻末刊記葉ハ補刻（明崇禎十二年＝一六三九）
春秋左伝注疏六十巻　晋杜預注　唐孔頴達疏　三十冊
○巻末刊記葉ハ補刻（明崇禎十一年＝一六三八）巻第九、35・36丁ハ補写
春秋公羊注疏二十八巻　漢何休解詁　唐徐彦疏　十冊
○明崇禎七年（一六三四）ノ刊記アリ
春秋穀梁伝注疏二十巻　晋范甯集解　唐楊士勛疏　五冊
○巻末刊記葉ハ補刻（明崇禎八年＝一六三五）
論語注疏解経二十巻　魏何晏集解　宋邢昺疏　四冊
○明崇禎十年（一六三七）ノ刊記アリ
孝経注疏九巻　唐玄宗御注　宋邢昺疏　一冊
○刊記磨滅
爾雅注疏十一巻　晋郭璞注　宋邢昺疏　四冊
○明崇禎一年（一六二八）ノ刊記アリ
孟子注疏解経十四巻　後漢趙岐注　宋孫奭疏　六冊

○明崇禎六年（一六三三）ノ刊記アリ

経典釈文三十巻叙録考証三十巻　唐陸德明撰　清盧文弨考証　文化六年（一八〇九）刊（江戸、和泉屋庄次郎）　覆清乾隆五十六年（一七九一）盧氏抱経堂刊本　三十冊（経十一函）

○封面ニ慶元堂（和泉屋）ノ刊語アリ、又清乾隆五十六年盧文弨ノ「重彫経典釈文縁起」アリ、底本ノ宋本ノ列銜・葉石君・陸龍其ノ跋アリ、末ニ慶元堂蔵版目録、奥付ニ文化六年清本翻刻／和泉屋庄次郎トアリ、「句読所」印アリ

【四書類】

孟子十四巻　存巻一～六　後漢趙岐注　明金蟠校　江戸中期刊　二冊（雑一函）

○延享四年（一七四七）刊本ノ残本

孟子十四巻　存巻十一～十四（版心作巻四）　宋朱熹集注　寛保一年（一七四一）刊（京、葛氏文華堂）　一冊（雑一函）

○外題角書（つのがき）「新鐫改正」ト、版心下ニ「文花堂」トアリ、「書林葛題」トシテ刊語アリ「寛保元歳・・／・・文華堂重彫」トアリ

四書集注　存論語十巻孟子七巻　宋朱熹撰　明末刊　五冊（経五函）

○左右双辺（内匡縦20×横13.6糎）、九行十七字、白口、単魚尾、句点ヲ刻ス

四書集注大全（外題・官板四書大全）（序跋題・性理四書大全）大学・大学或問・中庸・中庸或問各一巻論語二十巻孟子十四巻　明胡広等奉勅撰　江戸初期刊　覆刻明弘治六年（一四九三）清江書堂刊本　二十二冊（経十三）

○永楽十三年（一四一五）御製序、明宣德二年（一四二七）楊栄跋アリ、論語ノ序末ニ弘治六年清江書堂ノ原木記アリ

四書大全（封面）　存大学・大学或問・中庸・中庸或問各一巻　明胡広等奉勅撰　鵜飼石斎点　江戸前期刊　五冊（経五函）

○明永楽十三年（一四一五）胡広等ノ表、御製序、宣德二年（一四二七）楊栄ノ序アリ、封面ニ「金閶五雲居蔵版」トアリ

【小学類】

（訓詁）

広雅十巻　魏張揖編　隋曹憲音　明葉自本訂　郎奎金糾譌　宝暦七年（一七五七）刊（江戸、大黒屋弥兵衛・吉文字屋次郎兵衛）

覆刻明刊本　三冊（字七函）

○左右双辺十行二十字、白口、封面ニ「煥文閣」トアリ、奥付二書肆

五雅全書　明葉自本糾譌　陳趙鵠校　清中後期刊　八冊（字六函）

爾雅二巻　晋郭璞注

釈名四巻　漢劉熙撰

博雅十巻　魏張輯撰・隋曹憲音釈

小爾雅一巻　漢孔鮒撰

埤雅二十巻　宋陸佃撰

○四周単辺（内匡縦20.6×横13.2糎＝爾雅、他モホボ同）、九行二十字（埤雅ハ十行二十一字）、白口、封面ニ「五雅全書」ト、張堯翼ノ五雅序アリ、埤雅ノ末ニ「顧棫校本」トアリ

輶軒使者絶代語釈別国方言十三巻　漢楊雄撰　晋郭璞注　明程栄校　江戸前期刊　覆刻明刊本　一冊（子三函）

○版心ニ「仇俊刊」等底本ノ刻工名アリ、訓点ヲ刻ス

（字書）

重刊許氏説文解字五音韻府十二巻　漢許慎撰　宋徐鉉等校　明前期（十五世紀）刊　特大　六冊（字一函）

○四周双辺、七行十四字、粗黒口、双黒魚尾

韻府古篆彙選五巻　清陳策撰　元禄十年（一六九七）序刊　正徳三年（一七一三）印（京、柳枝軒茨木多左衛門）五冊（経五函）
○清康熙十一年（一六七二）陳晋、項継甲ノ序アリ、元禄十年（一六九七）天徳呉雲法曇序アリ、末ニ「彰考館訂本刊行目録
柳枝軒蔵版　正徳三年多左右衛門」トアリ、封面ニ柳枝軒蔵版記アリ

隷辨八巻　清顧藹吉撰　清乾隆年間刊　十六冊（字六函）
○四周単辺（内匡縦18.6×横14.2糎）、十二行二十字、白口、封面ニ「玉淵堂」ト、康熙五十六年（一七一七）項絪ノ目録識語、
乾隆八年（一七四三）黄晟ノ重鋟序アリ

集古印篆四巻（外題六書通）　明閔斎伋撰　秦駘校　安永四年（一七七五）刊（大坂、柳原喜兵衛等）　四冊（経五函）
○明順治十八年（一六六一）閔斎伋序、明和九年（一七七二）秦駘序アリ、封面ニ秦駘ノ識語、末ニ柳原積玉圃（河内屋喜兵衛）
蔵版和書目録ヲ附ス、奥付ニ柳原等五肆

重刊詳校篇海五巻　明趙年伯編　明万暦年間刊　十冊（字七函）
○四周単辺（内匡縦23×横13.6糎）、十行小字三十字、白口、万暦三十六年（一六〇八）李登ノ序アリ

正字通十二集附字彙旧本首巻　明張自烈撰　清廖文英編　清康熙年間刊（呉氏清畏堂）　三十二冊（字四函）
○四周双辺（内匡縦19.5×横12.8糎）、八行二十四字、白口、封面ニ清畏堂蔵版トアリ、康熙九年（一六七〇）廖文英、同二十四
年（一六八五）呉源起清畏堂ノ叙アリ
（韻書）

古今韻会挙要小補三十巻　明方日升撰　李維楨校　江戸前期刊　翻明刊本　三十冊（字三函）
○巻三十尾題前ニ「書林余彰徳、余象斗同刻」ト底本ノ刊記アリ、明万暦二十四年（一五九六）李維楨、同三十四年（一六〇六）
周士顕ノ序アリ

諧声品字箋九集附字彙数求声十二集　清虞徳升撰　清中期刊　十二冊（字四函）
○四周単辺（内匡縦19.8×横13.8糎）、八行二十四字、白口、句読点ヲ刻ス、附録ハ十行十二字不等、康熙十六年（一六七七）ノ自序、康熙二十六年ノ裘充美ノ序アリ、展園主人ノ長文ノ刊語アリ、康熙ノ原刊本ヲ嘉慶頃ニ覆刻セシモノナラン、松屏文庫印記アリ

史部

【正史類】

史記百三十巻　漢司馬遷撰　劉宋裴駰集解　唐司馬貞索隠　唐張守節正義　慶長年間刊　古活字無界八行本　五十冊（函番ナシ）
○四周双辺（内匡縦21.5×横17糎）、無界八行十七字、粗黒口、双花口魚尾
三国志六十五巻（魏書三十巻・蜀志十五巻・呉書二十巻）　晋陳寿撰　劉宋裴松之注　明陳仁錫評　田犀点　寛文十年（一六七〇）刊（京、植村藤右衛門・山本平左衛門）　四十冊（史九函）
○明万暦二十四年（一五九六）馮夢禎・黄汝良、天啓六年（一六二六）陳仁錫ノ序アリ、寛文十年林鵞峰・田犀一角ノ序アリ、寛文十年ノ刊記、植村玉枝軒儒書蔵版目録アリ
旧唐書二百巻附考証　後晋劉昫撰　清乾隆四年（一七三九）武英殿刊　六十冊（史五函）
○左右双辺（内匡縦21.9×横14.3糎）、十行二十一字、白口、単魚尾、明嘉靖十七年（一五三八）文徴明・聞人詮等ノ序アリ
旧五代史一百五十巻附考証　宋薛居正撰　清嘉慶一年（一七九六）掃葉山房刊　覆刻武英殿聚珍版　二十冊（史六函）
○左右双辺（内匡縦21.1×横14.3糎）、十二行二十五字、白口、単魚尾、版心下部ニ「掃葉山房」、巻頭ニ「武英殿聚珍版原本」

トアリ

○

十七史　明毛晋校　明崇禎年間毛氏汲古閣刊　三百冊（史一～三函）

史記一百三十卷　漢司馬遷撰　劉宋裴駰集解　崇禎十四年（一六四一）刊　十六冊

漢書一百卷　後漢班固撰　唐顔師古注　崇禎十五年（一六四二）刊　二十八冊

後漢書一百二十卷　劉宋范曄撰　唐李賢注（志）晋司馬彪撰　梁劉昭注　崇禎十六年（一六四三）刊　二十冊

三国志六十五卷　晋陳寿撰　劉宋裴駰注　崇禎十七年（一六四四）刊　十二冊

晋書一百三十卷　唐房玄齡等撰　崇禎一年（一六二八）刊　二十八冊

宋書一百卷　梁沈約撰　崇禎七年（一六三四）刊　二十冊

南斉書五十九卷　梁蕭子顯撰　崇禎十年（一六三七）刊　八冊

梁書五十六卷　唐姚思廉撰　崇禎六年（一六三三）刊　八冊

陳書三十六卷　唐姚思廉撰　崇禎四年（一六三一）刊　四冊

魏書百十四卷　北齊魏收撰　崇禎□年刊　二十六冊

北斉書五十卷　唐李白藥撰　崇禎十一年（一六三八）刊　六冊

後周書五十卷　唐令孤德棻撰　崇禎五年（一六三二）刊　八冊

隋書八十五卷　唐魏徵撰　崇禎八年（一六三五）刊　十六冊

南史八十卷　唐李延寿撰　崇禎十年（一六三七）刊　十六冊

北史一百卷　唐李延寿撰　崇禎十二年（一六三九）刊　二十六冊

唐書二百二十五卷　宋欧陽修等撰　崇禎□年刊　五十冊

五代史七十四巻　宋欧陽修撰　徐無党注　崇禎三年（一六三〇）刊　八冊

○左右双辺（内匡縦21.4×横14.8糎）、十二行二十五字、白口、単魚尾、「史記」ノ首ニ「重鐫十三経十七史縁起」アリ、「南斉書」末ニ北宋治平二年（一〇六五）崇文院ノ版刻（宋斉梁陳魏北斉後周ノ各書）ノ奉勅アリ、「唐書」ニ北宋嘉祐五年（一〇六〇）曾公亮「進新唐書表」アリ

○

二十一史　明嘉靖～万暦年間刊（北京国子監・南京国子監本取リ合ワセ）　（寄十五～二十六函）

史記一百三十巻補史記一巻史記正義論例謚法解列国分野一巻　漢司馬遷撰　劉宋裴駰集解　唐司馬貞索隠　唐張守節正義（補）唐司馬貞撰（論）唐張守節撰　明万暦二十四年（一五九六）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵　二十四冊（寄十五函）

○左右双辺（内匡縦19.3×横14.4糎）、十行二十一字、白口、単魚尾、版心上ニ「万暦二十四年刊」（首ノ「修史記」ノミ崇禎七年＝一六三四刊）下部ニ「刻工名」翁正・劉学・文忠・王志等多数アリ、「摛藻／堂蔵／書印」（陰刻）「休寧汪／季青家／蔵書籍」「履硯斎／図書印」（以上清汪文柏）「念終始／典于学」印アリ

前漢書一百巻　漢班固撰　唐顔師古注　明嘉靖八・九（一五二九・三〇）年南京国子監刊　明逓修　清汪文柏摛藻堂旧蔵　三十冊（寄十五函）

○版式同前、刻工名ナシ、版心上ニ「嘉靖八（九）年刊」トアリ、補刻葉ニハ「万暦十（二十六・三十七）・崇禎三（七）年」等アリ、明万暦十年（一五八二）南京国子監ノ重修記アリ、蔵印ハ「史記」ト同

後漢書一百三十巻　劉宋范曄撰　唐李賢注　（志）晋司馬彪撰　梁劉昭注　明嘉靖八・九年南京国子監刊　明逓修　清汪文柏摛藻堂旧蔵　二十冊（寄十六函）

○版式、蔵印同前、明天啓三年（一六二三）南京国子監ノ修序アリ

三国志　魏志三十巻蜀志十五巻呉志二十巻　晋陳寿撰　劉宋裴松之注　明敖文禎等校　明万暦二十八年（一六〇〇）北京国子監刊　十四冊（寄十六函）

○左右双辺（内匡縦23.4×横13.8糎）、十行二十一字、白口、単魚尾、版心上ニ「万暦二十八年刊」トアリ、「念終始／典于学」印アリ

晋書一百三十巻晋書音義三巻　唐房玄齢等奉勅撰（音）唐何超撰　明方従哲等校　明万暦二十四年（一五九六）北京国子監刊　三十冊（寄一六・十七函）

○版式、蔵印同前、版心上ニ「万暦二十四年刊」トアリ

宋書一百巻　南朝梁沈約撰　明陸可教等校　明万暦二十二年（一五九四）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵三十冊（寄十七函）

○四周双辺（内匡縦21.6×横15.6糎）、九行十八字、白口、三魚尾、版心上ニ「万暦二十二年刊」下ニ「刻工名・校勘生・字数」ナドアリ、明万暦二十二年・二十五年（一五九七）ノ南京国子監ノ序アリ、巻一末等ニ万暦二十一年（一五九三）馮夢禎ノ校異識語アリ、蔵印「史記」ニ同ジ

南斉書五十九巻　南朝梁蕭子顕撰　明趙用賢等校　明万暦十七年（一五八九）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵　十二冊（寄二十函）

○四周双辺（内匡縦19.8×横13.8糎）、九行十八字、白口、双魚尾、版心上「万暦十七年刊」下「刻工名・字数」アリ、明万暦十八年（一五九〇）張一桂ノ重刊序アリ、蔵印「史記」ニ同ジ

梁書五十六巻　唐姚思廉撰　明蕭雲挙等校　明万暦三十三年（一六〇五）北京国子監刊　十冊（寄二十函）

○版式蔵印「三国志」ニ同ジ、版心上「万暦三十三年刊」

陳書三十六巻　唐姚思廉撰　明呉士元等校　明万暦三十三年（一六〇五）北京国子監刊　六冊（寄二十函）

○版式蔵印「三国志」ニ同ジ、版心上「万暦三十三年刊」

魏書一百十四巻　北斉魏収撰　明馮夢禎等校　明万暦二十四年（一五九六）南京国子監刊　明修　清汪文柏摛藻堂旧蔵　三十冊（寄二十函）

○左右双辺（内匡縦19.5×横14糎）十行二十一字、白口、単魚尾、版心上「万暦二十四年刊」下「刻工名・字数」アリ、万暦二十四年鏤板記、同二十五年序アリ、明末ノ補刻記アリ、蔵印「史記」ト同ジ

北斉書五十巻　唐李百薬撰　明趙用賢等校　明万暦十六・十七年（一五八八・九）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵　十冊（寄二十一函）

○版式蔵印「南斉書」ニ同ジ、版心上「万暦十六（十七）年刊」下「刻工名・字数」アリ、万暦十六・十七年ノ校序アリ、版心上「万暦十六年刊」下「刻工名・字数」アリ

周書五十巻　唐令孤徳棻等撰　明趙用賢等校　明万暦十六年（一五八八）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵十冊（寄二十一函）

○版式蔵印「北斉書」ト同ジ、万暦十六年ノ重刻序アリ、版心上「万暦十六年刊」下「刻工名・字数」アリ

隋書八十五巻　唐魏徵撰　明季道統等校　明万暦二十二年（一五九四）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵二十冊（寄二十二函）

○版式蔵印「北斉書」ト同ジ、版心上「万暦二十二年刊」下「刻工名・字数」アリ

南史八十巻　唐李延寿撰　明趙用賢等校　明万暦一七年（一五八九）・十九年（一五九一）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵　三十冊（寄二十一函）

○版式蔵印「北斉書」ト同ジ、版心上「万暦十七年刊」下「刻工名・字数」ナシ、万暦十九年重刻序アリ

北史一百巻　唐李延寿撰　明鄧以讃等校　明万暦一九年（一五九一）・二十一年（一五九三）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵　三十冊（寄二十二函）

○版式蔵印「北斉書」ト同ジ、版心上「万暦十九年刊」下「刻工名・字数」アリ、万暦二十一年ノ刻跋アリ

唐書二百二十五巻唐書釈音義二十五巻　宋欧陽修撰　（音）董衝撰　刊　明清遞修（都察院等）　五十冊（寄十八函）

○四周双辺不等（内匡縦22×横14.9糎不等）十行二十二字、白口、双魚尾、版心上「成化十八年～順治十六刊」下「都察院補刊・東廂王／南廂周同補刊」等トアリ「念終始／典于学」印アリ

宋史四百九十六巻　（欠巻一～六十四）元脱脱等撰　刊　明嘉靖万暦間逓修　百四十冊（寄十九函）

○四周双辺（内匡縦20.8×横14.3糎）、十行二十字、白口、双魚尾不等、版心上「嘉靖三十五年～崇禎七刊」下「字数・校者名」アリ、「念終始／典于学」印アリ、巻四十ノ二十三丁ニ「李裕写／呉恵刊」トアリ原刻ニ近シ

遼史一百十六巻　元脱脱等撰　明張邦奇等校　明嘉靖八年（一五二九）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵十二冊（寄二十四函）

○左右双辺（内匡縦21.2×横15糎）、十行二十二字、白口、双魚尾、版心上「嘉靖八年刊」、蔵印「北斉書」ニ同ジ

金史一百三十五巻　元脱脱等撰　明張邦奇等校　明嘉靖八年（一五二九）南京国子監刊　清汪文柏摛藻堂旧蔵十二冊（寄二十四函）

○版式蔵印「遼史」ニ同ジ、版心モ同ジ

元史二百十巻　明宋濂等撰　明楊道賓等校　明万暦三十年（一六〇二）北京国子監刊　五十冊（寄二十六函）

○版式蔵印「三国志」ニ同ジ、版心上「万暦三十年刊」トアリ

【編年類】

資治通鑑二百九十四巻資治通鑑目録三十巻　宋司馬光撰　元胡三省音注　明陳仁錫評閲　明崇禎二年（一六二九）序刊　合八十七冊（寄二十八～三十函）

○四周単辺（内匡縦21.2×横14.2糎）、十行二十字、白口、単魚尾、句点・傍点・傍線ヲ刻ス、明崇禎二年（一六二九）陳仁錫ノ序アリ、「念終始／典于学」ノ印アリ、「目録」ニ文化二年（一八〇五）加藤多太夫（司書）ノメモアリ

宋元通鑑百五十七巻　明薛応旂撰　陳仁錫評閲　明天啓六年（一六二六）序刊（寄三十函）

○右「資治通鑑」ト版式同ジ、印記モ同ジ、明嘉靖四十五年（一五六六）薛応旂、天啓六年陳仁錫ノ序アリ

資治通鑑二百九十四巻　存巻十七～二十四（漢紀）、巻一百八十一～一百一八十四（隋紀）、一百八十五～二百六（唐紀）　宋司馬光撰　元胡三省音注　石川褧等校　天保年間刊　十四冊（雑一函）

○津藩有造館ニヨル右ノ明刊本「資治通鑑」ノ覆刻本

資治通鑑綱目五十九巻附前編二十五巻　欠前編巻一～五　宋朱熹撰　（前）明南軒撰　明陳仁錫評　江戸前期刊　覆刻明刊本　七十五冊（史七～八函）

○宋乾道八年（一一七二）朱熹ノ序、明成化九年（一四七三）御製序、明崇禎三年（一六三〇）史応選ノ序アリ

鼎鍥趙田了凡袁先生編纂古本歴史大方鋼鑑補三十九巻　明袁黄編　明万暦三十八年（一六一〇）余氏双峰堂刊　巻三十七補配江戸前期刊本　二十冊（史十一函）

○四周双辺（内匡縦20.8×横13.5糎、上欄1.8糎）、十二行二十八字、白口、単魚尾、明万暦三十八年（一六一〇）韓敬、同三十四年（一六〇六）袁黄ノ序アリ、末ニ「万暦庚戌仲冬月／双峰堂余氏梓行」ト蓮牌木記アリ

尺木堂綱鑑易知録九十二巻　清呉乗権等撰　清刊（培遠堂蔵版）　四十冊（史十函）

○四周単辺（内匡縦17.6×横12.8糎、上欄2.2糎）、九行二十字、白口、単魚尾、句点・圏点ヲ刻ス、清康熙五十年（一七一一）ノ序アリ、封面ニ「培遠堂蔵版」トアリ

【紀事本末類】

三藩紀事本末四巻　清楊陸栄撰　清刊　覆刻　二冊（史十二函）

○左右双辺（内匡縦17.5×横12.8糎）九行二十字、白口、単魚尾、清康熙五十六年（一七一七）ノ自序アリ、大坂書物奉行印アリ

皇朝武功紀盛四巻　清趙翼撰　清刊　湛貽堂蔵版　二冊（史十二函）

○四周単辺（内匡縦17.4×横13糎）、十一行二十一字、白口単魚尾、乾隆五十七年（一七九二）盧文弨・趙翼ノ序、封面ニ「湛貽

堂蔵版」ト、大坂書物奉行印アリ

【別史類】

通志二百巻　宋鄭樵撰　明陳宗夔校　清乾隆十三年（一九四八）序刊　覆刻明刊本　三二冊（寄二七函）

○四周単辺（内匡縦18.5×横13.0糎）、十行二十字、白口、無魚尾、元至治二年（一三二二）鄭樵ノ序アリ、明正徳九年（一五一四）龔用卿、清乾隆十三年（一七四八）于敏中ノ序アリ、封面ニ「金匱山房蔵版」トアリ

弘簡録二百五十四巻続弘簡録元史類編四十二巻　明邵経邦撰　（続）清邵遠平撰　清乾隆年間刊（継善堂蔵版）　百冊（史四函）

○四周単辺（内匡縦20.1×横14.4糎）、十二行二十四字、白口、単魚尾、明嘉靖三十六年（一五五七）撰者序、清康熙二十七年（一六八八）邵錫蔭ノ序、己未邵遠平ノ重刻序アリ、（続）ニ康熙四十五年（一七〇六）朱彝尊ノ序アリ、乾隆帝ノ諱「弘」ヲ欠筆マタ「宏」ニ改ム、前記「十七史」ト同時ノ印

【雑史類】

貞観政要十巻　唐吳兢撰　元戈直集解　清嘉慶三年（一七九八）席氏掃葉山房刊　六冊（史十二函）

○左右双辺（内匡縦17.5×横12.8糎）、十行二十字、双魚尾、封面ニ「嘉慶三年重鐫／掃葉山房蔵版」トアリ

【伝記類】

伊洛淵源録新増十四巻附朱晦庵答呂伯恭論淵源録一巻伊洛淵源続録六巻　明楊廉編　（続）明謝鐸編　慶安二年（一六四九）刊（京、風月荘左衛門）　覆刻明刊本　五冊（子一函）

○明弘治九年（一四九六）謝鐸ノ重刻跋アリ、慶安ノ木記アリ

古今万姓統譜一百四十巻附歴代帝王姓系統譜六巻氏族博攷十四巻　明凌迪知撰　延宝九年（一六八一）刊（京、秋田屋山本平左衛門）　覆刻明万暦刊本　四十冊（史十三函）

○明万暦七年（一五七九）王世貞、凌迪知ノ序アリ、版心下部ニ「沈玄龍」等、底本ノ刻工名アリ、寛文十二年（一六七二）鵜飼敬順ノ跋アリ

【史評類】

史通二十巻　唐劉知幾撰　明陸深校　明嘉靖十四年（一五三五）刊　野間三竹・林読耕斎旧蔵　十二冊（史十一函）

○明嘉靖十四年（一五三五）陸深・彭汝寔・李佶ノ序跋、同十五年楊名ノ跋アリ、白綿紙印

東萊先生音註唐鑑二十四巻　宋范祖禹撰　呂祖謙注　寛文九年（一六六九）刊（京、風月荘左衛門）　六冊（史十一函）

○明弘治十年（一四九七）白昂・呂鏜ノ序アリ、奥付「寛文九年・・／・・風月荘左衛門発行」

【地理類】

水經注四十巻　後魏酈道元撰　清乾隆十八年（一七五三）黄氏槐蔭草堂刊　十冊（史十二函）

○四周単辺（内匡縦17.6×横13.3糎）、十一行二十一字、線黒口、単魚尾、巻十末に「歙県項絪校刊」、四十末ニ「重校刊於槐蔭草堂」ト刻ス、封面ニ「天都黄暁峯校刊／槐蔭草堂蔵版」トアリ、明嘉靖十三年（一五三四）黄省曾、万暦十三年（一五八五）王世懋、同七年（一五七九）朱謀諱、李長庚ノ序、清乾隆十八年（一七五三）黄晟跋アリ

大明一統志九十巻　明李賢等奉敕撰　陰（蔭）山東門（元質）校　正德三年（一七一三）刊（京、弘章堂山本長兵衛）　六十冊（地一函）

○明天順五年（一四六一）李賢等上表、御製序アリ、元禄十二年（一六九九）蔭山元質ノ序アリ、正德三年ノ刊記ト封面アリ

【職官類】

大唐六典三十巻　唐玄宗撰　李林甫等奉敕注　近衛家熙校　享保九年（一七二四）序刊　初印　三十冊（制一函）

○宋紹興四年（一一三四）張希亮等ノ校記アリ、明正徳十年（一五一五）王鏊ノ序、享保九年近衛家熙ノ序アリ、上質ノ楮紙印

【政書類】

通典二百巻　唐杜佑撰　清乾隆十二年（一七四七）武英殿刊　四十八冊（寄四十三函）

○左右双辺（内匡縦21.8×横14.1糎）、十行二十一字、白口、単魚尾、版心上ニ「乾隆十二年校刊」トアリ、乾隆十二年ノ御製序、武英殿監造ノ記アリ、「念終始／典于学」印アリ

文献通考三百四十八巻　宋馬端臨撰　明末刊　清修　一百二十冊（寄三十三・三十四函）

○四周単辺（内匡縦20.9×横13.9糎）、十行二十字、白口、単魚尾、句点・声点ヲ刻ス、馬端臨ノ原序ニ加エ、明嘉靖三年（一五二四）御製重刊序アリ、封面ニ「蔵版」トアルモ蔵版所ヲ示サズ、板面ハ摩滅多ク、補刻箇所多シ、「念終始／典于学」印アリ

続文献通考二百五十四巻　明王圻撰　明万暦三十年（一六〇二）松江府刊　六十冊（寄三十五函）

○左右双辺（内匡縦19.8×横13.7糎）、十一行二十二字、白口、単魚尾、版心下ニ字数・刻工名アリ、刻工「王成・張華・高選」等、明万暦十四年（一五八六）王圻序、他ニ同三十年（一六〇二）三十一年（一六〇三）ノ序アリ、同三十年松江府ニヨル工費ヲ記シタ刻記アリ、「念終始／典于学」印アリ

大明会典二百二十八巻（万暦重修）　明申時行・趙用賢等奉勅撰　明万暦年間刊　巻第三十～三十二補写　六三冊（寄七函）

○四周単辺（内匡縦22.1×横14糎）、十行二十字、白口、単魚尾、明弘治・正徳・嘉靖・万暦ノ御製序・勅諭アリ、明万暦十五年（一五八七）申時行等上表アリ、「念終始／典于学」印アリ

大明律三十巻附図・表・問刑條例不分巻　明劉惟謙等奉敕撰　荻生北溪（観）校　江戸中期刊（京、風月荘左衛門）　九冊（制八函）

○明洪武七年（一三七四）ノ劉惟謙上表、同三十年（一三九七）太祖御撰序、享保七年（一七一二）荻生観ノ跋アリ

荒政輯要九巻　清汪志伊撰　清嘉慶十年（一八〇五）屛山堂刊　二冊（十二函）

○左右双辺（内匡縦20.2×横12.3糎）、白口単魚尾、清嘉慶十年ノ汪志伊序、封面ニ汪志伊ノ刊語アリ、末尾ニ「梟轅西首文会斎廿鐫」トアリ、大坂書物奉行ノ印アリ

欽定科場條例五十八巻　清徳明等奉敕編　清嘉慶九年蘇州布政司刊　十冊（制八函）

○四周双辺（内匡縦19×横14.8糎）九行二十字、白口、単魚尾、句点、清嘉慶四年（一七九九）カラ九年（一八〇四）マデノ奉旨アリ、封面ニ「嘉慶九年重刊　蘇州布政司衙門蔵版」トアリ

欽定軍器則例三十二巻　闕巻一～二　清刊　七冊（兵一函）

○左右双辺（内匡縦19.8×横12.8糎）九行二十字、白口、単魚尾

【目録類】

国史経籍志六巻　明焦竑撰　江戸前期刊（京、野田庄右衛門）　九冊（史十四函）

○巻題ニ「徐象橒（許自昌）校刊」トアリ、版心下部ニ「曼山館」トアリ、「野田庄右衛門板行」ノ刊記アリ

乾隆欽定四庫全書総目不分巻　清乾隆敕撰　文化二年（一八〇五）刊　官版　六冊（史十四函）

○尾題下ニ「文化二年刊」ト、文化五年慶元堂和泉屋庄治郎、古香堂伏水屋宇兵衛ノ奥付・封面アリ

子部

【儒家類】

新語二巻　漢陸賈撰　明范欽・范大沖校　寛政八年（一七九六）刊（大坂、積玉圃河内屋喜兵衛）　覆刻明刊本　一冊（子三函）

○明万暦十九年（一五九一）范大沖（范欽ノ男）ノ序アリ

賈子新書十巻　漢賈誼撰　福井敬斎校　寛延二年（一七四九）刊　寛政五年（一七九三）修（京、田中市兵衛等）二冊（子三函）

○書肆ハ京都三書肆、明正徳九年（一五一四）黄宝ノ序アリ、寛政五年福井軌ノ序アリ、天明八年（一七八八）ニ版木焼ケ再校シタト

塩鉄論十二巻　漢桓寛撰　明張之象注　伊藤東涯点　宝永年間刊（江戸、青黎閣須原屋伊八）　覆刻明刊本　朱筆校正本　六冊（子二函）

○明嘉靖三十二年（一五五三）張之象ノ序、宝永四年（一七〇七）徳山主人棲息室ノ序、同五年伊藤東涯ノ跋アリ、校正貼リ込ミ箇所アリ

新序十巻　漢劉向撰　明程栄校　平野金華点　享保二十年（一七三五）刊（江戸、錦山堂植村藤三郎）　覆刻明刊本五冊（子三函）

○宋曾鞏ノ序アリ

説苑二十巻　漢劉向撰　明程栄校　寛文年間刊　後印（江戸、須原屋茂兵衛）　覆刻明刊本　五冊（子三函）

○宋曾鞏ノ序、明嘉靖二十六年（一五四七）何良俊ノ序アリ、刊記ハ入木

新纂門目五臣音注揚子法言十巻　漢揚雄撰　晋李軌・唐柳宗元・宋宋咸・呉秘・司馬光注　明嘉靖年間刊　三冊（子三函）

○四周双辺（内匡縦19.8×横13.5糎）、八行十七字、白口、白綿紙印、「監本五臣音註揚子法言」トモ題ス

揚子文編（目次題）　漢楊雄撰　明後期刊　一冊（集十二函）

○四周単辺（内匡縦20.2×横11.5糎）九行二十五字、白口、小字写刻体、句点傍点アリ

潛夫論十巻　漢王符撰　奥田元継点　天明七年（一七八七）刊（大坂、六藝堂田原平兵衛）　五冊（子三函）

○天明二年（一七八二）那波魯堂ノ序、同六年奥田元継ノ跋アリ、三都六肆ノ奥付、封面ニ「六藝堂鐫」トアリ

中説十巻　旧題隋王通撰　宋阮逸注　明嘉靖年間刊　二冊（子三函）

○四周双辺（内匡縦18×横13.5糎）、八行十七字、白口、白綿紙印、前出「揚子法言」ト同時刊

○

太極図説　宋朱熹撰　熊谷立閑鼇頭点　元禄十三年（一七〇〇）刊（江戸、須原茂兵衛）　一冊（経五函）

○宋乾道九年（一一七三）朱熹跋、熊谷立閑ノ跋アリ、元禄十三年ノ刊記

周子全書七巻　闕巻二～四　宋周敦頤撰　宋朱熹等編　明徐必達校　延宝年間刊　覆刻明刊本　二冊（子二函）

○明万暦三十四年（一六〇六）徐必達ノ序アリ、版心ニ底本ノ刻工「毛有為刻」等アリ

張氏全書十五巻　宋張載撰　宋朱熹等編　明徐必達校　安井真祐点　延宝三年（一六七五）刊　覆刻明刊本　十冊（子二函）

○周子全書ト合刻、延宝二年安井真祐跋、同三年ノ刊記アリ

二程全書六十八巻　宋程顥・程頤撰　朱熹編　明徐必達校　寛文年間刊　覆刻明刊本　二十冊（子一函）

○明万暦三十四年（一六〇六）徐必達ノ序アリ

朱子語類一百四十巻　宋朱熹撰　黎靖徳編　明陳煒校　鵜飼石斎・安井真祐点　寛文八年（一六六八）刊　寛政三年（一七九一）印（大坂、泉本八兵衛等）　四十冊（子一函）

○封面ニ「風月堂・崇高堂」トアリ、明成化九年（一四七三）ノ序、跋アリ、明万暦三十一年（一六〇三）ノ序アリ、寛文八年

安井真祐ノ校点跋アリ

○

小学句読六巻　明陳選撰　題林道春点　享保二年（一七一七）刊（京、北村四郎兵衛）　二冊（子一函）

大学衍義補一百六十巻首一巻序目一巻　明丘濬撰　陳仁錫評閲　福井軌点　寛政四年（一七九二）序刊（丹波、篠山藩蔵版・大坂、柏原屋武助、清右衛門）　六十冊（経十一）

○明成化二十三年（一四八七）丘濬、弘治一年（一四八八）周洪謨、万暦三十二年（一六〇四）御製序、寛政四年福井軌ノ序アリ、奥付ニ「丹陽篠山侯蔵版　浪華柏原屋清右衛門・武助」トアリ、

卓吾先生批評龍谿王先生語録鈔八巻　明王畿撰　李贄評　明万暦年間蘇州閶門刊　八冊（子二函）

○全紙裏打、日本ニテ改装、封面ニ「蘇州閶門重刻」トアリ、明万暦二十六年（一五九八）序アリ、四周単辺（内匡縦19.6×横13.6糎）、九行十八字、白口、句点・傍点・圏点ヲ刻ス、版心ニ「秣陵　楊応時書　梅仕見刻」トアリ、朱墨ノ書入アリ

【兵家類】

七書七巻　存巻五（三略）巻六（六韜）巻七（唐大宗李衛公問対）　溪百年校　江戸後期刊（大阪、文金堂河内屋太助）　一冊（兵一函）

○末ニ文金堂製本目録（河内屋太助）ヲ附ス

紀効新書十八巻首一巻　明戚繼光撰　明万暦二十三年（一五九五）嶺南明雅堂江殿卿刊　後印　八冊（兵一函）

○四周単辺（内匡縦20.3×横13.6糎）、十行二十字、白口、単魚尾、封面ニ「本堂蔵版」、明万暦二十三年周世選ノ序アリ、目録末、巻末ニ「嶺南書林明雅堂江殿卿重刻発行」トアリ

経国雄略四十八巻　明鄭大郁編　清初期刊（三槐堂）　二十五冊（史六函）

天経攷三巻畿甸攷五巻省藩攷四巻河防攷四巻海防攷三巻江防攷三巻賦徭攷二巻賦税攷二巻屯政攷二巻辺塞攷六巻四夷攷二巻奇門攷三巻武備攷九巻

○四周単辺（内匡縦19.8×横13.2糎）、八行二十字、白口、無魚尾、版心下部ニ「観社」トアリ、句点ヲ刻ス、首ニ観社主人鄭大郁ノ序、紀例アリ

武備志二百四十巻　明茅元儀撰　鵜飼石斎点　寛文四年（一六六四）刊　後印（大坂、森本文金堂河内屋太助）　八十一冊（兵二函）

○明天啓一年（一六二一）撰者、李維貞、顧起元等ノ序アリ、巻一首版心下ニ「秣陵章弼写　高梁刻」ト底本ノ工者名アリ、寛文四年ノ刊記、文金堂ノ広告アリ

【農家類】

泰西水法五巻　泰西熊三祓撰　明除光啓筆記　李之藻訂　江戸末期写　二冊（子二函）

○明万暦四十年（一六一二）著者等ノ序アリ、寛文四年（一六六四）松下見林跋アリ、九行十六字、字面高サ18.5糎、全文一筆、訓点ナシ、朱ノ句点アリ

【天文算法類】

天経或問二巻序目図一巻附大略天学名目鈔　明游藝編　方以智鑑定　余明校　西川如見点　江戸中期刊（嵩山房小林新兵衛）　四冊（子二函）

○明張自烈・方以智等ノ原序アリ、享保十五年（一七三〇）西川如見等ノ序跋アリ

【術数類】

楊子太玄経十巻　漢楊雄撰　宋司馬光注　明刊　三冊（子三函）

○四周単辺（内匡縦19.9×横11.5糎）九行二十五字、白口

【雑家類】

（雑学）

呂氏春秋二十六巻　存巻十七～二十　秦呂不韋撰　漢高誘注　江戸後期刊　一冊（雑一函）

○「風月」印アリ

顔氏家訓二巻　北斉顔之推撰　寛文二年（一六六二）刊（村田庄五郎）覆刻明刊本　二冊（子二函）

○巻頭ニ「建寧府通判廬陵羅春刊」ト題ス

（雑考）

白虎通徳論四巻　漢班固撰　明郎壁金訂　鵜飼石斎点　寛文二年（一六六二）刊　覆刻明刊本　唐本仕立　二冊（子三函）

○明嘉靖一年（一五二二）冷宗元ノ序、王世貞「読白虎通」、明天啓六年（一六二六）郎壁金ノ題辞アリ

独断二巻　漢蔡邕撰　明程栄校　江戸中期刊（京、玉樹堂唐本屋吉左衛門）　一冊（制八函）

○末ニ玉樹堂儒書蔵板目録アリ

容斎随筆十六巻続筆十六巻三筆十六巻四筆十六巻五筆十巻　宋洪邁撰　清嘉慶道光年間刊　十六冊（随一函）

○左右双辺（内匡縦19×横13糎）、九行十八字、線黒口、宋嘉定五年（一二一二）何異、明弘治十一年（一四九八）李瀚、明崇禎三年（一六三〇）馬元調ノ序アリ、又章謝ノ重刻容斎随筆五集序アリ

陳眉公重訂野客叢書十二巻附附録　宋王楙撰　明陳継儒訂　承応二年（一六五三）刊　後修（尾張、風月孫助、京、風月荘左衛門）　六冊（随二函）

○附録最後葉後修

校訂困学紀聞集証二十巻　宋王応麟撰　清万希槐集証　屠継序校　清嘉慶二十四年（一八一九）刊（山寿斎胡氏蔵版）　十二冊（随一函）

○十一行二十五字、封面ニ嘉慶乙卯年春季新鐫トアリ、大坂書物奉行印

丹鉛総録二十七巻　明楊慎撰　明万暦年間刊　十冊（随一函）

○四周双辺（内匡縦19.3×横14糎）、十行二十字、白口、単字の刻工名アリ、有補鈔

通雅五十二巻首三巻　明方以智撰　清姚文燮校　江戸後期刊（立教館）　初印　二十八冊（字二函）

○明崇禎十五年（一六四二）方以智ノ序、同十六年ノ方以智ノ序・凡例アリ、清康熙四年（一六六五）姚文燮・銭澄ノ序アリ、封面ニ立教館校鐫トアリ　上製本

簷曝雑記六巻　清趙翼撰　清末刊　二冊（随一函）

○左右双辺（内匡縦17.3×横13糎）、十一行二十一字、白口

（雑説）

風俗通義十巻　漢応劭撰　明鍾惺評　万治三年（一六六〇）刊（飯田忠兵衛）　覆刻明刊本　唐本仕立　一冊（子二函）

○応劭ノ自序、元大徳十一年（一三〇七）李果ノ序、明天啓六年（一六二六）郎壁金ノ題辞アリ

千百年眼十二巻　明張燧撰　范明泰閲　明和四年（一七六七）刊（小浜、拡充堂吹田伝右衛門）　六冊（随三函）

○奥付ニ若北拡充堂蔵版、京都風月荘左衛門、海老屋善七、明和丁亥歳五月発行トアリ

焦氏筆乗六巻　明焦竑撰　謝與棟等校　江戸前期刊　慶安二年（一六四九）印（京、林甚右衛門）　五冊（随三函）

○巻末刊記は入木

池北偶談二十六巻　清王士禎撰　王廷掄校　清刊（文粋堂）覆刻　十冊（随二函）

○左右双辺十一行二十三字、封面ニ文粋堂蔵版、康熙年間原刊本の覆刻

（雑品）

弦雪居重訂遵生八牋十九巻　明高濂撰　明鍾惺訂　明天啓崇禎年間刊　遞修　二十冊（随一函）

○四周単辺（内匡縦20.2×横11.4糎）、九行十八字、白口、句点・圏点ヲ刻ス、尾題ニ「永懐堂重訂」トアリ、封面ニ「課花書屋蔵版」トアリ

（雑纂）

琅邪代醉編四十巻序目一巻　明張鼎思撰　陳性学等校　延宝三年（一六七五）刊　二十三冊（随二函）

○万暦二十五年（一五九七）ノ陳性学、同年張鼎思ノ序、同二十六年黄天全ノ後序アリ、延宝三年開板ノ刊記アリ

（雑編）

羣書治要五十巻　原闕巻四・十三・二十　闕巻一・二　唐魏徵等奉勅撰　細井徳民等校　天明刊（尾張藩）初印　二十四冊（類四函）

諸子彙函二十六巻首目一巻　明帰有光編　文震孟参訂　明天啓五年（一六二五）序刊　二十六冊（類三函）

○九行十八字

【小説家類】

（雑事）

西京雑記六巻　晋葛洪撰　明程栄校　元禄三年（一六九〇）刊　二冊（随三函）

李卓吾批点世説新語補二十巻　宋劉義慶撰　梁劉孝標注　明李贄批点　元録七年（一六九四）刊（京、林九兵衛）覆刻明刊本

十冊（史十二函）

○明嘉靖三十五年（一五五六）王世貞、万暦八年（一五八〇）同十三年（一五八五）王世懋、同十四年（一五八六）陳文燭ノ序アリ、「外舎」印アリ

輟畊録三十巻　明陶宗儀撰　江戸前期刊　覆刻明刊本　八冊（随二函）

○左右双辺（内匡縦20.3×横12.3糎）、十行二十一字、白口

（異聞）

山海経十八巻　晋郭璞撰　清乾隆間黄氏槐蔭草堂刊　二冊（史十二函）

○前記「水経注」ト同時同人ノ出版

【類書類】

藝文類聚一百巻　唐欧陽詢等奉勅撰　明王元貞校　明末刊（賢諫堂）　三十二冊（類五函）

○十行二十字、湯聘尹ノ重刊序アリ

太平御覧一千巻目録十五巻経史図書綱目一巻　宋李昉等奉勅撰　清鮑崇城校　清嘉慶二十三年（一八一八）序刊　一百二冊（叢五・六函）

○十三行二十二字、清嘉慶十七年（一八一二）阮元、嘉慶二十三年鮑崇城ノ各序アリ

新編古今事文類聚前集六十巻目二巻後集五十巻目二巻続集二十八巻目一巻別集三十二巻目一巻新集三十六巻目二巻外集十五巻目一巻遺集十五巻目一巻　宋祝穆撰（新・外）元富大用撰（遺）元祝淵撰　明唐富春校　寛文六年（一六六六）刊（京、八尾勘兵衛友久）覆明万暦三十二年（一六〇四）唐氏刊本　百冊（類一・二函）

○明万暦三十二年唐富春ノ刊序アリ、末ニ寛文六年林鵞峰ノ跋アリ

玉海二百四巻附辞学指南四巻・詩攷一巻・詩地理攷六巻・漢藝文志考證十巻・通鑑地理通釈十四巻・周書王会一巻・漢制攷四巻・踐祚篇集解一巻・急就四巻・小学紺珠十巻・姓氏急就篇二巻・六経天文篇二巻・周易鄭康成注一巻・通鑑答問五巻　宋王應麟撰　清熊本校　元至元六年（一二六九）慶元路儒学刊　明正徳一年（一五〇六）～清乾隆五十六年（一七九一）遞修　百二十冊（制二～四函）

○元至元六年・至正十一年（一三五一）ノ序、明正徳二年（一五〇七）ノ補刊記、明万暦十一年（一五八三）重修玉海書、万暦十七年（一五八九）趙用賢ノ引アリ、版心上象鼻ニ正徳二年カラ乾隆五十六年ノ年号アリ

天中記六十巻　明陳耀文撰　明屠隆等校　明万暦十七年（一五八九）序刊　巻三十六・三十七補写　六十冊（類六函）

○左右双辺（内匡縦19.2×横12.9糎）、白口、単魚尾、明万暦十七年（一五八九）陳文燭、隆慶三年（一五六九）ノ序アリ

増続会通韻府群玉三十八巻　元陰時夫編　陰中夫注　包瑜続編　寛永二年（一六二五）刊（京、田中長左衛門）古活字印　三十七冊（字五函）

○栗皮表紙、四周双辺（内匡縦21.9×横16.1糎）、十行十八字、双花口魚尾

麗藻・麗藻典故計八巻　明鄧志謨撰　安永七年（一七七八）刊（京、汲古堂河南儀兵衛）　四冊（集十三函）

○封面に汲古堂トアリ、刊記ハ印記ノ如ク捺ス

十三経類語十四巻　明羅万藻編　魯重民纂注　明崇禎十三年（一六四〇）序刊　写刻体　八冊（類三函）

○八行二十二字、崇禎十三年魯重民ノ「紀略」アリ

【道家類】

文始真経三巻（関尹子）　旧題周尹喜撰　白井真純校　元文五年（一七四〇）刊（京、山城屋茂左衛門）　一冊（子三函）

○尹喜ノ図像一葉アリ、元文四年白井真純ノ序、同五年ノ木麟洞ノ跋アリ

集部

【楚辞類】

楚辞十七巻楚辞音一巻　前漢劉向編　後漢王逸注　（音）崇文堂編　寛延三年（一七五〇）刊（江戸、前川六左衛門）　六冊（集五函）

○音ノ末ニ崇文堂ノ識語アリ、外舎印アリ

楚辞十七巻（楚辞箋注）　後漢王逸注　宋洪興祖補注　寛延二年（一七四九）刊（京、風月荘左衛門等）　四冊（集五函）

○末ニ柳美啓ノ刊語アリ、明汲古閣本ニ拠ルトアリ、版心ニ所々「汲古閣」トミユ

【別集類】

分類補註李太白詩二十五巻年譜一巻集千家註杜工部詩集二十巻附杜工部文集二巻（合刻李杜詩集）　唐李白・杜甫撰　（李）宋楊齊賢集注　元蕭士贇補注　（李白年譜）宋薛仲邕撰　（杜）宋黄鶴補注　明許自昌校　明万暦三十年（一六〇二）許自昌刊　十二冊（集六函）

○左右双辺、九行二十字、白口、王穉登ノ合刻李杜詩集序、万暦三十年許自昌ノ刻李杜全集小引アリ

杜律集解五言四巻七言二巻（鼇頭増広本）　明邵傅撰　陳学楽校　清水玄迪標注　元禄九年（一六九六）刊（京、美濃屋彦兵衛）　六冊（集五函）

○元禄八年宇都宮遯庵ノ跋アリ、「句読所」印アリ

唐韓昌黎集四十巻読韓集叙説・唐韓昌黎集附録・遺文各一巻唐韓昌黎外集十巻唐柳河東集四十五巻読柳州叙説・唐柳河東集遺文一巻唐柳河東外集二巻　唐韓愈・柳宗元撰　明蔣之翹輯注　鵜飼石斎点　万治三年寛文四年（一六六〇・一六六四）刊　後印（京、中江久四郎）　（韓）二十六冊（柳）二十四冊（集七函）

○韓文ノ万治、柳文ノ寛文各刊記ハ入木デトモニ中江氏

白氏長慶集七十一巻目録二巻　欠巻三十九～四十一、六十八～七十一　唐白居易撰　明馬元調校　明暦三年（一六五七）刊　初印　三十二冊（集四函）

○

王陽明先生全集二十二巻　明王守仁撰　清俞嶙編　清刊（敦厚堂蔵版）　覆康熙年間刊本　二十四冊（集三函）

○四周双辺、九行十九字、白口、封面ニ敦厚堂蔵版ト、康熙十九年（一六八〇）鄔景従序アリ、大坂書物奉行印

太史升庵文集八十一巻　明楊慎撰　明趙開美校　明万暦十年（一五八二）跋刊　軟体字　二十冊（寄八函）

○四周単辺（内匡縦21.3×横13.4糎）、十行二十字、白口、単魚尾、明万暦十年（一五八二）蔡汝賢等跋アリ、「念終始／典于学」印アリ

升庵外集一百巻　明楊慎撰　焦竑編　顧起元校　明万暦四十五年（一六一七）序刊　二十冊（寄八函）

○四周単辺（内匡縦20.5×横14.1糎）、十行二十字、白口、単魚尾、明万暦四十五年顧起元序、同四十五年（一六一八）王煇序アリ

副墨五巻　明汪道昆撰　清抄本　五冊（集十二函）

○四周双辺ノ刷野紙、九行十八字、版心下方ニ「南昌山蔵」

滄溟先生集三十巻附録一巻　明李攀龍撰　明隆慶六年（一五七二）序刊　十六冊（集八函）

○左右双辺（内匡縦19.2×横13.9糎）、十行二十字、白口、白紙、隆慶六年張佳胤序アリ、「新安呉氏書画之印」アリ

弇州山人四部稿賦二巻風雅一巻詩五十一巻文八十四巻詩四十二巻通計一百八十巻目録十二巻　明王世貞撰　三十二冊（集七函）

明万暦五年（一五七七）汪氏世経堂刊　荻生徂徠説書入本、朱墨句点ノ書入

○四周双辺（内匡縦19.9×横14.8糎）、十行二十字、白口、下象鼻ニ「世経堂刻」、万暦五年汪道昆序アリ

弇州山人続稿二百七巻目録十巻　明王世貞撰　明末刊　四十六冊（集九函）

○左右双辺（内匡縦19.7×横12.7糎）、十行二十字、白口、王釈爵　劉鳳　李継楨ノ序、朱点書入多シ

甑甄洞藁二十巻目録一巻　明呉国倫撰　明万暦十三年（一五八五）序刊　十四冊（集十函）

○四周単辺（内匡縦19.6×横14糎）、十行二十字、白口、万暦十三年許国、王世貞ノ序アリ

甑甄洞続藁　詩部十二巻文部十五巻目録一巻　明呉国倫撰　馮夢禎校　明万暦三十一年（一六〇三）馬攀龍刊　特大二十冊（集十函）

○縦29.4横18.6糎ノ特大本、原刷題箋ヲ添エル、四周単辺（内匡縦20.7×横13.9糎）、十行二十字、白口、刻工名（蔣維勝、蔣継祖、蔣承意等）アリ、白紙、万暦二十三年郭子章、三十一年李維楨・鄧原岳序、文巻第十五ハ補鈔、「勿折角勿巻脳・・・」ノ長文蔵印アリ

古今振雅雲箋□巻　存巻一　明徐渭編　張嘉和訂　明末刊　一冊（集十二函）

○四周単辺（内匡縦19.8×横2.8糎）無界、九行十八字、白口

広荘　明袁宏道撰　江戸写　一冊（集十二函）

○「陽秋亭」ト柱下方ニ刻ス刷リ罫紙（九行）二十八字詰デ書写ス、全文一手

○

西河合集　清毛奇齢撰　清嘉慶年間刊　百二十冊（寄五・六函）

○四周単辺（内匡縦18.6×横13.5糎）、十行二十字、白口、無魚尾、傍点圏点ヲ刻ス、清乾隆三十五年（一七七〇）陶杏秀、嘉慶一年（一七九六）阮元ノ序アリ、清梁清標ノ題書等アリ、第八十一冊首ニ封面アリ「蕭山陸凝瑞堂蔵版」トアリ、「念終始／

典于学」印アリ

【総集類】

（断代）

唐詩品彙九十巻唐詩拾遺十巻　明高棅編　明万暦三十三年（一六〇五）許自昌序刊　十五冊（集六函）

○左右双辺、十行二十字、白口、明洪武二十六年（一三九三）高棅序、万暦三十三年許自昌序、「歴代名公叙論」「詩人爵里詳節」ヲ附ス、「外舎」印アリ

唐詩拾遺十巻　存巻五～七　明高棅編　張恂訂　寛政九年（一七九七）刊（忘憂館）木活　二冊（雑一函）

○「唐詩品彙」ノ附録部分ノミ翻刻シタモノ、版心下部ニ「忘憂館蔵」トアリ、寛政九年ノ刊記アリ、「風月」「終日詰」印アリ

明高廷礼唐詩正声二十二巻附詩人世次爵里補遺（唐詩正声箋注）　明高棅編　東（夢亭）（娶）箋注　天保十四年（一八四三）刊（東娶古人居蔵版）　十冊（集五函）

○封面奥付ニ南勢古人居蔵版トアリ

明文奇賞四十巻　明陳仁錫評選　沈国元校　明天啓三年（一六二三）序刊　二十四冊（集十一函）

○四周単辺（内匡縦21.9×横13.5糎）、十行二十一字、白口、無界、傍点ヲ刻ス、天啓三年陳仁錫序アリ、

（通代）

古詩賞析二十二巻首一巻　清張玉穀選解　清刊　覆刻乾隆三十七年（一七七二）張氏楽圃斎蔵版本　十冊（集六函）

○封面ニ楽圃斎蔵版トアリ、乾隆三十七年張氏序アリ、張氏家刻本ヲ封面モソノママ覆刻セシナラン

文体明辨六十一巻　存巻五・六　明徐師曾撰　江戸前期刊　一冊（雑一函）

漢魏六朝一百三家集　明張溥編　清刊　覆明崇禎間刊本　八十四冊（集一・二函）

○左右双辺（内匡縦20.2×横13.3糎）、九行十八字、白口、単魚尾、「漢賈詛集」カラ「隋薛道衡集」マデ

【尺牘類】

滄溟先生尺牘三巻　明李攀龍撰　張所敬編　潘煥宸校　田良暢（田中蘭陵）点　宝暦一年（一七五一）刊（江戸、嵩山房小林新兵衛）　一冊（集十二函）

○享保十四年（一七二九）服部南郭序、同十五年田中蘭陵ノ跋、刊記ニ「原本享保十五年、新刊宝暦元年、江戸嵩山房小林新兵衛」ト

弇州先生尺牘選二巻　明王世貞撰　沈一貫選　曽有原（増野雲門）校　寛保二年（一七四二）十月序刊　後印（大坂、嘉嚮堂上田卯兵衛等）　一冊（集十二函）

○曽有原跋ハ寛保一年（一七四一）十二月、序（山縣周南）ハ同二年十月、刊記（埋木）ハ同二年九月、奥付ハ嘉嚮堂

袁中郎先生尺牘二巻　明袁宏道撰　宮川崑山・鳥居九江編　山本北皐校　安永十年（一七八一）序刊（奚疑塾蔵版）　初印書入本　一冊（集十二函）

○安永十年宮川崑山ノ序アリ

謀野集刪　明王穉登撰　田中蘭陵編　菊池忠充校　享保二十年（一七三五）刊（江戸、富士屋弥三右衛門・大和屋孫兵衛）　一冊（集十二函）

○享保二十年入江南溟（江忠囿）ノ序アリ

【詩文評類】

唐詩紀事八十一巻　宋計有功撰　明嘉靖二十四年（一五四五）洪楩清平山堂刊　十六冊（集十二函）

○四周双辺（内匡縦18.5×横13.1糎）、十行二十字、白口、白紙、明孔天胤序ニ嘉靖二十四年洪楩清刊行ノ記事アリ、序ノ上象鼻ニ「清平山堂」トアリ、巻二十九～三十二補鈔、四部叢刊収載ノテキスト

詩藪内編外編雑編各六巻続編二巻　明胡応麟撰　貞享三年（一六八六）刊　後印（京、菱屋孫兵衛）　六冊（集五函）

○奥付ニ皆川淇園、大典、宇野明霞等ノ著作宣伝アリ

叢部

（較正）説郛一百二十巻続四十六巻　明陶宗儀撰　明郁文博校　清陶珽増補　明末清初刊（宛委山堂蔵版）　清初修　百二十冊続四十六冊（叢一～三函）

○左右双辺（内匡縦19.2×横13.4糎）、九行二十字、白口双白魚尾、明弘治九年（一四九六）郁文博ノ序アリ、「仁正侯長昭／黄雪書屋鑑／蔵図書之印」（仁正寺藩主市橋長昭）アリ

新刊経解（封面）一名通志堂経解　清納蘭成徳編　清康熙十九年（一六八〇）序刊　六百冊（寄四十四～五十四函）

○左右双辺（内匡縦19.5×横14.1糎）、十一行二十字、白口、単魚尾、版心ニ字数・刻工名アリ、封面ニ「通志堂蔵版」トアリ、清康熙十二年（一六七三）納蘭成徳、同十九年（一六八〇）徐乾学ノ序アリ、「念終始／典于学」印アリ

百川学海　甲集～癸集　宋左圭編　明陳仁錫校　明末刊　清修（読書坊）　四十八冊（叢四函）

○九行二十字、封面ニ「陳明卿先生訂　読書坊蔵版」トアリ

皇清経解一千四百巻首一巻　清厳杰編　清道光九年（一八二九）学海堂刊　三百六十冊（寄三十六～四十二函）

○左右双辺（内匡縦18.5×横12.8糎）、十一行二十四字、白口、単魚尾、清道光九年厳杰ノ跋アリ、「念終始／典于学」印アリ

日本漢文

錦里文集十九巻（錦里先生文集）闕巻一、十六～十九　木（下順庵）貞幹撰　江戸後期刊　六冊（集十三函）

異称日本伝三巻　松下見林撰　元録六年（一六九三）刊（大坂、崇文軒毛利田庄太郎）　十五冊（史十二函）

榑桑名賢（公）文集前編五巻　文会堂林九成編　元禄十一年（一六九八）刊（京、編者）荻生徂徠評移写書入本　六冊（集十三函）

○末尾ニ次ノ墨書アリ「字子迪之孫宇佐美貞蔵名賢文集一本、徂徠先生所加標書批点者也、蓋従先人相伝云、我藩三矢生役於東都之日、購得名賢文集、則就其家而写標書批点、詳密不遺、携来献于学館矣、嗚呼此雖緒餘之所及、而果出於物子之手歟、可不昆岡之片玉乎哉、文政己丑仲春」

東野遺稿三巻　安藤東野（煥図）撰　根本武夷・山井崑崙・石川大凡編　寛延二年（一七四九）刊（江戸、嵩山房小林新兵衛）　三冊（集十三函）

○享保五年（一七二〇）山縣周南・元文三年（一七三八）太宰春台ト秋山澹園ノ序、延享四年（一七四七）宮田迂斎ノ跋アリ

孫武兵法択十三巻（闕巻一～六）　副言二巻　新井白石撰　江戸後期写　二冊（兵一函）

○無界、八行二十一字、字面高サ20糎、カナ交リ、訓点アリ

停雲集二巻　新井白石編　享保三年（一七一八）跋刊　同十二年印（江戸、西村源六・唐本屋清兵衛）　二冊（集十三函）

○享保二年（一七一七）白石、同三年田伯鄰ノ序アリ、室直清・雨森芳洲等ノ文ヲ編輯

二酉洞（外題・唐本類書目録）　一色時棟撰　元録十二年（一六九九）刊（京、林九兵衛・武村新兵衛）　二冊（史十四函）

○元禄十二年松崎祐ノ序、撰者序アリ

徂徠集三十巻　存巻十～十二　荻生徂徠撰　江戸中期刊　二冊（雑一函）

四家雋六巻　欠巻一～二　荻生徂徠評選　宝暦十一年（一七六一）刊（餐霞館蔵版）　四冊（集五函）
○餐霞館ハ藩士加賀山衛士ノ号、宝暦十一年土屋秀明ノ跋アリ、「外舎」印アリ

唐後詩　存丁集（五言律）三巻庚集（五言絶句）一巻辛集（七言絶句）二巻総論一巻　明李攀龍等撰　荻生徂徠選定　根本遜志等校　享保五年（一七二〇）序刊（根本氏武夷山房蔵版）　七冊（集五函）
○全十集、総テ明人ノ詩、封面ニ武夷山房蔵版トアリ、山野崑崙・石川大凡・根本氏ノ同校、「外舎」印アリ

七経孟子攷文補遺　山井崑崙撰　荻生北渓（物観）補遺　享保十六年（一七三一）刊（江戸、松会三四郎等）三十二冊（経六函）
周易十巻尚書二十巻附古文考一巻毛詩二十巻春秋左伝六十巻礼記六十三巻論語十巻古文孝経一巻孟子十四巻
○享保十一年（一七二六）荻生徂徠、同十五年（一七三〇）荻生北渓（物観）序アリ、享保十六年刊記、奥付十一肆

春台先生紫芝園前稿五巻後稿十五巻附録一巻目録一巻（春台先生文集）　太宰春台撰　宝暦二年（一七五二）刊（江戸、西村源六・京、西村市郎右衛門・大坂、渋川清右衛門）　十二冊（集十三函）
○版心下方ニ「文刻堂」トアリ、西村源六ノ堂号

産語二巻　闕名撰　太宰春台編　寛延二年（一七四九）刊（江戸、文刻堂西村源六）　半二冊（子二函）

経済録十巻　太宰春台撰　写　十冊（集十三函）

周南先生文集十巻（初稿）附行状・墓碑　山縣周南撰　宝暦十年（一七六〇）刊（大坂、堀内忠助・渋川清右衛門、江戸、西村源六）　六冊（集十三函）
○版心下方ニ「称觥堂」トアリ、渋川柏原屋清右衛門ノ堂号

南郭先生文集四編四十巻　存第四編巻九・十、補遺　服部南郭撰　宝暦八年（一七五八）刊（江戸、小林新兵衛）一冊（雑一函）
○版心下ニ「嵩山房梓」トアリ、奥付ニ「宝暦八・・／江戸書肆・・／小林新兵衛梓行」トアリ

遺契十三巻　服部南郭撰　写　書入本　六冊（類四函）

論語徴集覧二十巻附一巻　存巻七・八（述而・泰伯）　松平頼寛編　江戸後期刊（松平観涛閣）　初印　一冊（雑一函）

○「句読方」印アリ

弇州先生尺牘解二巻　河世俊撰　宝暦八年（一七五八）序刊（大坂、上田卯兵衛等）　一冊（集十二函）

○宝暦八年岡白駒ノ序アリ、奥付ハ同七年十一月大坂大野木市兵衛ト京都丸屋市兵衛、版心下方ニ「翠筠舎蔵」トアリ

○

唐本類書考三巻　向栄堂山田三郎兵衛編　寛延四年（一七五一）刊（京、編者等）　大三切三冊（史十四函）

○刊記ニ山田氏ノ他、林権兵衛、永田調兵衛、河南四郎右衛門アリ、前記「二酉洞」ノ後編ニ似タリ

夏小生経伝埒解四巻附一巻追加一巻　渡辺荒陽撰　文化六年（一八〇九）刊（江戸、和泉屋庄治郎等）渡辺氏時習堂蔵版　二冊（経四函）

○文化五年（一八〇八）榊原政堯、寛政五年（一七九三）小澤健ノ序、文化二年（一八〇五）ノ跋、奥付ニ文化六年和泉屋等三都四肆

群書一覧六巻　尾崎雅嘉撰　享和二年（一八〇二）刊（大坂、海部屋勘兵衛）　十二冊（史十四）

○奥付ニ「享和二年多田定学堂海部屋勘兵衛」トアリ

呉子国字解五巻　闕名撰　江戸後期写　片假名交リ　五冊（兵一函）

○無界十行二十字、字面高サ19糎、寄合書